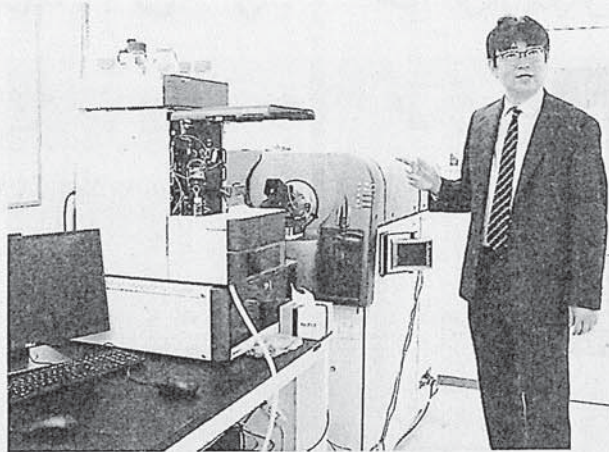


# 健康未来描く拠点

## 弘大研究センター開所

弘前大学が医学研究科基礎研究棟（弘前市在府町）隣に整備していた「健康未来イノベーションセンター」が完成し22日、開所式が行われた。産学官民が結集する研究拠点とし、病気の発症を予測する方法や予防法の開発を加速させ、健康産業の創出につなげる。（太田佳希）



### 産学官民結集

弘大で行われている文部科学省の研究プロジェクト「COI」推進のため、2016年に採択された同省の公募事業「地域科学技術実証拠点整備事業」の補助金を活用した。施設の建設と設備導入で8億円規模の支援を受けたという。同センターは4月に完成。2階建てで延べ床面積



【写真上】2階の研究フロアには質量分析装置などの先端機器がそろそろ【同下】テープカットで開所を祝う佐藤学長（中央）ら関係者

840平方メートル。医学部キャンパスの中心にあり、基礎研究棟や臨床研究棟と直結している。1階は産学官民交流フロアに位置付け、健康診断の結果を即日提示し、データに基づいた健康教育を行う新たな健康診断モデル「啓発型健診」の開発・実証の場となる。健康セミナーなども開催される。

2階は弘大の研究者や、弘大COI参画企業などが利用できる開放的な研究フロア。ビッグデータの解析に使われるスーパーコンピュータや、タンパク質を調べて病気の原因を探る質量分析装置など先端機器がそろっている。

同日の開所式には弘大や文科省、県、弘前市、企業などの関係者約100人が出席。佐藤敬学長らがテープカットで開所を祝った。佐藤学長は「新型健診やビッグデータ解析を通じ、健康社会の実現に貢献したい」と話した。